

《平成 12 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）62 隻\*の平成 12 年漁期前半（平成 12 年 9 月 1 日～12 月 31 日）の総漁獲量は 2,648 トン、総水揚げ金額は 12 億 3,196 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 42.7 トン/隻、水揚げ金額は 1,987 万円/隻で、漁獲量・金額とも前漁期および平年を上回りました。

\* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 63 隻ですが、統計は 62 隻分の集計です。

1 隻当たり漁獲量(トン)

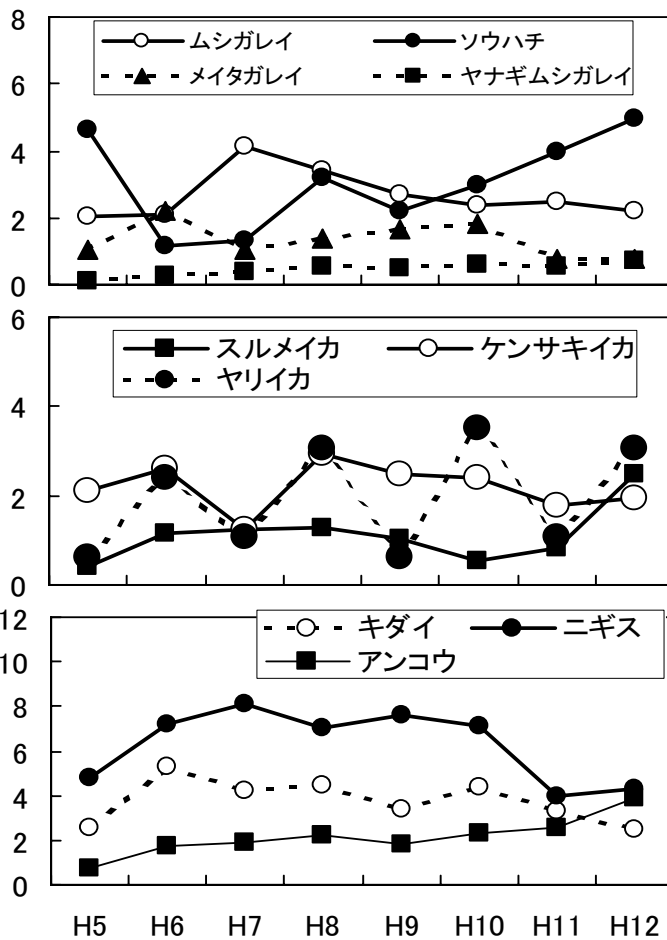


図1 島根県小型底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化。

**ソウハチ好調！**

近年増加傾向を示しているソウハチの1隻当たり漁獲量は5.0トンで前漁期を25%上回り、平成5年以降最高の漁獲となりました。特に、11,12月には130トン以上のまとまった漁獲がありました。ムシガレイは平成7年以降、減少傾向にあり、1隻当たり漁獲量は2.2tで前漁期を10%下回りました。また、近年増加傾向にあるヤナギムシガレイの1隻当たり漁獲量は0.7トンで、平成5年の7倍の水揚げとなりました。メिताガレイの1隻当たり漁獲量は0.8トンであり、前漁期同様、休漁明けの9月にまとまった漁がなく、低調に推移しました。

**ヤリイカ好調！**

ケンサキイカは9月にまとまった漁獲がありましたが、秋漁の終漁が早く、1隻当たり漁獲量も1.9トンに留まりました。また今漁期好調であるヤリイカの1隻当たり漁獲量は3.0トンで前漁期の約3倍の水揚げがありました。ヤリイカは、近年1年おきに好不漁を繰り返す傾向にあり、今漁期は好漁年に当たるものと推測されます。

**ニギス、キダイ低調**

ニギス、キダイは低調に推移し、1隻当たり漁獲量はニギスが4.3トン、キダイが2.5トンでした。一方、アンコウの1隻当たり漁獲量は3.9トンで前漁期の2倍の水揚げがあり、期間を通して安定した水揚げがありました。アカムツも小型サイズながら9月に集中的な漁獲が見られました。

このほか特異的な事例として、休漁明けからイボダイが豊漁であり、過去最高となる164トンの水揚げがありました。この現象は九州西岸から島根県沖にかけて見られました。また、マルイボダイ、ソコイトヨリと言った南方系の種類もまとまって漁獲されました。

## 沖合底びき網漁業

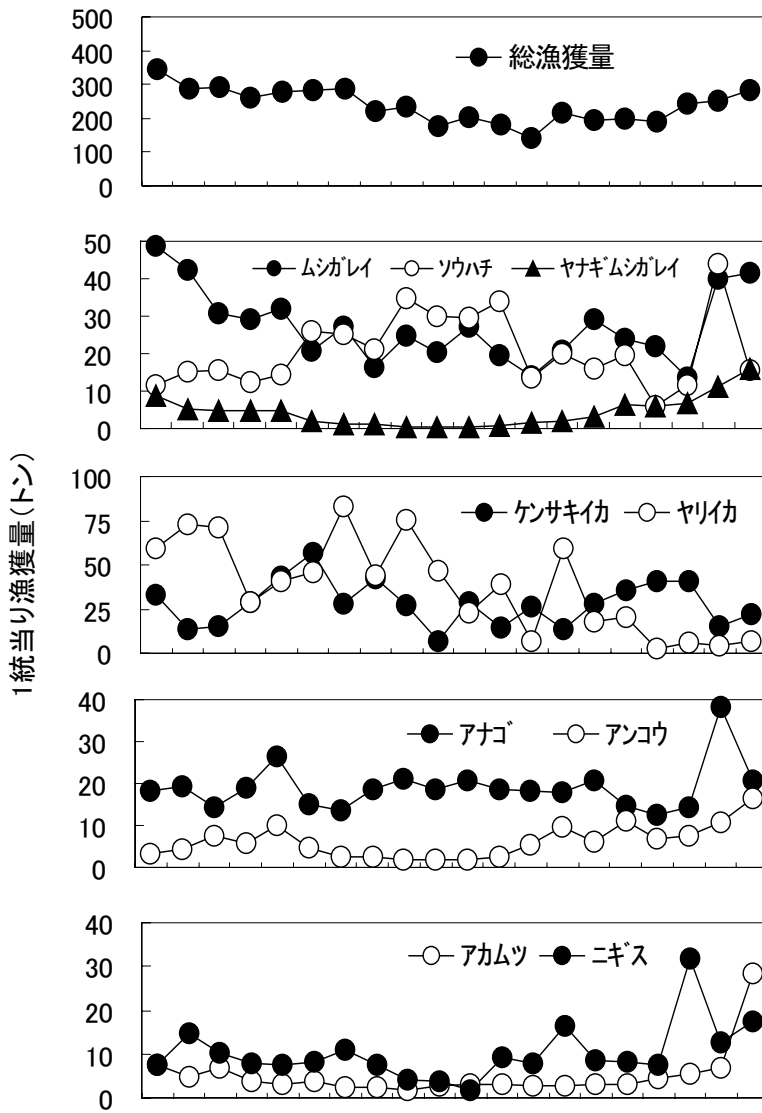


図2 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

### 県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数6ヶ統）の平成12年漁期前半（平成12年8月15日～平成12年12月31日）の総漁獲量は1,707トン、総水揚げ金額は8億1千万円でした。また、1統当たり漁獲量は285トンで前漁期を12%、平年（過去19年平均）を20%上回りました。水揚げ金額は1億3千万円前で前漁期を12%下回りましたが、平年を33%上回り、昭和56年漁期以降、昨年に次いで2番目の漁でした。

#### ムシガレイ・ヤナギムシガレイ好調！

ムシガレイの漁獲量は前漁期から増加傾向にあり、今漁期は1統当たり42トン/統で前漁期を4%、平年を57%上回りました。ヤナギムシガレイは16トン/統で前漁期の1.4倍、平年の4.2倍となり、昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。一方、ソウハチは16トン/統で前漁期の35%に留まり、平年を26%下回りました。

#### イカ類は低調

ケンサキイカは9月にまとまった漁獲があったこともあり、漁獲量は1統当たり22トン/統で前漁期を46%上回りました。また、ヤリイカは7トン/統で前漁期を76%上回る水揚げでした。しかし、平年比較では両種とも23%～83%下回りました。

#### アンコウ好調！

アンコウの漁獲量は平成4年漁期以降増加傾向にあります。今漁期は小底同様10～12月にまとまった漁獲があり、1統当たり16トン/統で前漁期の1.5倍、平年の2.9倍でした。アナゴは21トン/統で

前漁期の約半分の水揚げでしたが、平年を9%上回りました。

#### アカムツ絶好調！

アカムツは8月から10月まで小型魚を主体に好漁が続き、1統当たり28トン/統で前漁期の4.2倍、平年の7.3倍となり、昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。ニギスは18トン/統で前漁期の1.4倍、平年の1.8倍の水揚げでした。また、小底と同じくイボダイがまとまって漁獲され171トン/統で前漁期の52倍、平年（過去8年平均）の34倍でした。

### 県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成12年漁期前半の総漁獲量は756トン、総水揚げ金額は4億3千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は189トンで前漁期とほぼ同じ量、平年を4%下回りました。水揚げ金額は1億1千万円で前漁期および平年を5%下回りました。

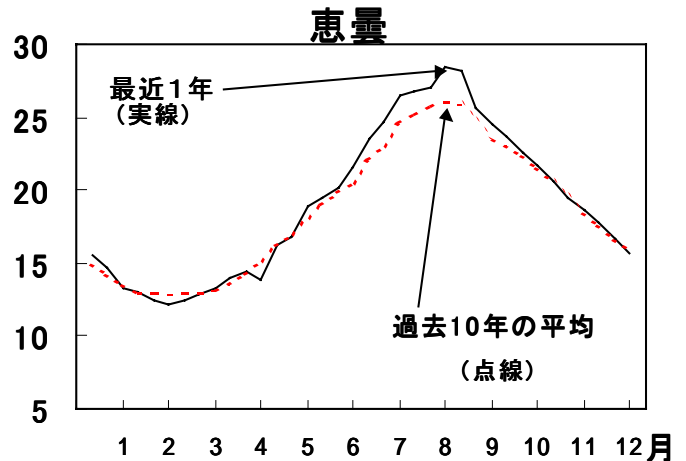
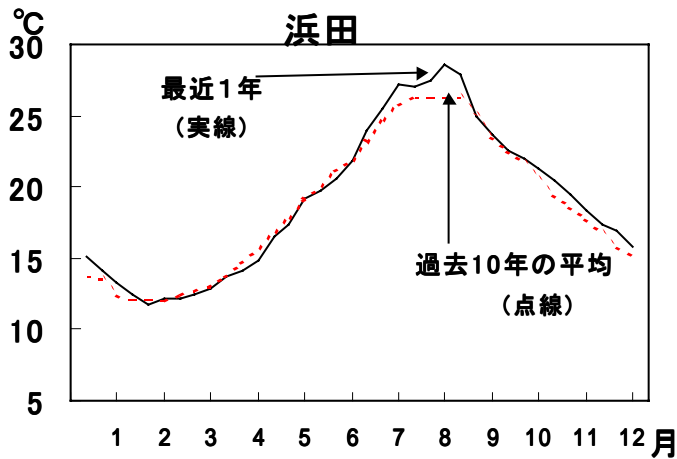
#### アカムツ・ケンサキイカ・スルメイカ・アンコウ好調、ヤナギムシガレイ・ムシガレイ・ニギス横ばい！

アカムツの総漁獲量は18トンで前漁期の3.3倍となり、平成2年漁期以降最高の水揚げでした。また、ケンサキイカは42トンで前漁期の1.8倍、スルメイカは20トンで前漁期の2.4倍、アンコウは92トンで前漁期の1.6倍でした。その他、総漁獲量が前年と比べ増加した魚種はムシガレイ75トン（112%）、アナゴ59トン（126%）で、逆に減少（5%～39%減）した魚種はヤナギムシガレイ105トン、ソウハチ30トン、ニギス19トン、キダイ57トン、ヤリイカ8トンなどでした。

## 《 12月の海況 》

12月	月平均	平年差	評価
浜田	16.7	+0.8	やや高め
恵曇	16.7	±0.1	平年並み

12月の月平均水温は11月に比べ浜田、恵曇とも2.8下降しました。浜田では「やや高め」、恵曇では「平年並み」の水温経過となりました。



## 《 12月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に1,433トン、水揚金額は1億6,957万円でした。1統当りの漁獲量は358トンで前年の317%、平年の56%でした。水揚金額は4,239万円でこれも前年を大きく上回っています。恵曇港では、マサバ、ソウダガツオ主体に総漁獲量293.5トン、水揚金額は2,380万円でした。1統当りの漁獲量は42トン（前年比：183%）、水揚金額は340万円（前年比：118%）でした。浦郷港ではマサバ、マアジ、スルメイカ主体に総漁獲量1,040トン、水揚金額は9,468万円でした。1統当りの漁獲量は208トン（前年比：87%）、水揚金額は1,894万円（前年比：115%）となりました。浜田ではマアジ魚の好調が続いていますが、県全体では、マサバの漁獲割合が増加しました。また、マイワシ、カタクチイワシは低調に推移しました。

### 【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は20.3トンで、スルメイカが中心でした。平年には大きく及ばないものの不漁だった前年に比べるとやや好調な漁となりました。魚体は、20入りが主体となっています。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカを中心に63トンの漁獲で、こちらも前年に比べると好調でした。水温の低下とともに沖合に分布していたスルメイカが山陰沿岸に南下してきたため魚が活発化したものと思われます。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は372トン、総水揚金額は2億0,446万円でした。また、1統当たり漁獲量は62トン（前年比120%、平年比115%）、水揚金額は3,408万円（前年比97%、平年比129%）でした。アナゴ（前年比97%）、アンコウ（前年比266%）、イボダイが漁獲の中心で、特にイボダイは先月に引続き例年にない好漁でした。

恵曇港の総漁獲量は200トン、総水揚金額は1億1,558万円でした。また、1統当たり漁獲量は50トン（前年比120%、平年比102%）、水揚金額は2,889万円（前年比102%、平年比95%）でした。漁獲の中心はアンコウ（前年比252%）、ソウハチ（前年比1,115%）、ヤナギムシガレイ（前年比101%）でした。

**【小型底びき網漁業】**

和江・大田市両漁協では、出漁日数が前年に比べ増加（20％）したことにより、量・金額とも前年を20～35％上回りました。また、1航海当たりの量・金額も前年を上回っています。今月もソウハチ、アンコウ、ヤリイカが好調に推移し、特にヤリイカは前年の約4倍の漁獲がありました。逆にキダイ、ケンサキイカは前年を大きく下回っています。ヤリイカは9月より安定した水揚げがあり、最近の漁獲動向より今漁期は好漁の年に当ることから、水温が下がる今後の動向が注目されます。

**【定置網漁業】**

隠岐島と県東部ではスルメイカの漁獲量が急増しており、特に浦郷港では全漁獲量の97％がスルメイカで占められています。県西部では前月から引き続きマアジが漁獲の主体を占めていますが、浜田港ではマアジの漁獲量自体は前月の30％程度まで減少しています。浦郷港を除いて、水揚げ日数が減少したこともあり、総漁獲量、水揚金額とも前月を下回っていますが、前年および前々年同月と比較すると、各地とも1.5倍から3倍と、好調な漁況となっています。

**【釣・縄】**

前月に引き続きクロマグロの水揚げが好調です。浜田港では全漁獲量の72％を、五十猛港では97％をクロマグロが占めています。漁獲サイズは浜田港では2kg前後が主体です。漁獲量、水揚金額ともクロマグロの好調な漁況に支えられ、前月の1.4倍～2.1倍となっており、前年同月と比較すると、4倍～8倍と好調な水揚げとなっています。

**漁獲統計**

平成 12年12月1日～31日

漁業種類	水揚げ港	延獲数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航海 当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	48	マアジ・マサバ・ソウダガツオ	29.9ト	1,433ト
	恵曇	33	マサバ・ソウダガツオ・マアジ	8.9ト	294ト
	浦郷	49	マサバ・マアジ・スルメイカ	21.2ト	1,040ト
イカ釣り 5トン以上	浜田	91	スルメイカ	223kg	20.3ト
	西郷	172	スルメイカ	366kg	63.0ト
沖底	浜田	33	アナゴ・アンコウ・イボダイ	11.3ト	372ト
	恵曇	31	アンコウ・ソウハチ・ヤナギムシガレイ	6.5ト	200ト
小底	和江	424	ソウハチ・アンコウ	695kg	295ト
	大田市	222	ソウハチ	607kg	135ト
定置網	浜田	50	マアジ・カワハギ類・ソデイカ	570kg	28.5ト
	恵曇	30	スルメイカ・カワハギ類・ソウダガツオ	478kg	14.4ト
	浦郷	25	スルメイカ	1,456kg	36.4ト
釣・縄	浜田	974	クロマグロ	47.8kg	46.5ト
	五十猛	476	クロマグロ	129.5kg	61.7ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延獲数・統数で算出しており四捨五入した値です。